

## 市北部（久井町・大和町）における交通弱者の移動手段の確保に関する決議

地域公共交通は、高齢者等の交通弱者にとって、通院や買い物など日常生活を送る上で欠かせない移動手段であり、誰もが安全・安心・快適に暮らすための生活基盤である。

三原市内においては、鉄道、路線バスをはじめ、地域コミュニティ交通、定期航路などの地域公共交通が運行され、多くの市民生活を支えているが、近年の著しい人口減少に加え、マイカーに依存するライフスタイルの定着などに伴い、地域公共交通の利用者は年々減少する傾向にある。今後、さらに利用者の減少が続くと、地域公共交通は衰退し、適切な運行サービスの提供が困難になることが容易に予想される。

とりわけ、高齢化や過疎が進んでいる久井町及び大和町においては、町内を運行している路線バスや地域コミュニティ交通の利便性が低いことから、利用者が減少し、地域公共交通が脆弱化するという悪循環が顕在化している。

また、両町内には医療機関や小売店が少ないことから、多くの住民が、通院や買い物をするために世羅町内の公立世羅中央病院や商業施設へ市域をまたいだ外出をしており、本来であれば、運転免許証を返納したい高齢者であってもマイカーに依存せざるを得ない状況がある。

今後、高齢化が一層進む中で、高齢者等の交通弱者が住みなれた久井町・大和町で安全・安心・快適に暮らし続けるためには、現行の地域公共交通の見直しは必要不可欠であり、地域住民の多くが望んでいる利便性、安全性、経済性を兼ね備えた交通手段への移行に向けた取組を早急に行う必要がある。

以上を踏まえ、本市議会は市長に対し、次の政策を提言する。

なお、政策として具体的に示す以下の2施策については、新たに導入することで経費の増加は見込まれるものの、先に述べた久井町・大和町の地域特性等に鑑み、優先すべき政策として実現を求める。

### 1 久井町内へのデマンド型乗合タクシーの導入

現在，地域コミュニティ交通として運行されている「久井ふれあいバス」は，あらかじめ停留所や運行時間が決められた運行形態であること，また便数の少なさから，高齢者や体の不自由な方にとって利用しづらいものとなっている。

そのため，高齢者等の交通弱者の移動の負担を軽減できる交通手段への見直しが必要である。今後，高齢化の進展に伴い，日常生活や外出が困難な住民の増加が見込まれることや高齢者のマイカーの利用による交通事故防止などの観点からも，久井町に自宅から指定した場所への移動を可能にする「デマンド型・区域運行乗合タクシー」を導入すること。

## 2 世羅町へ送迎するデマンド型乗合タクシーの導入

久井町及び大和町には，世羅町に接続する路線バスの便数が極端に少ないことに加え，地域コミュニティ交通の運行区域が町内に限られているため，世羅町への外出に特化した交通手段の確保が必要である。

よって，町内を運行するデマンド型タクシーは運用しつつも，その機能を拡大し，効率よく世羅町へ向かうことができる「町外運行専用のデマンド型・区域運行乗合タクシー」を導入すること。

以上，決議する。

令和2年9月30日

三原市議会